

---

# 靈使いたちの日常

影靈使い-マナ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

靈使いたちの日常

### 【データ】

N2931V

### 【作者名】

影靈使い - マナ

### 【あらすじ】

遊戯王でお馴染み、靈使いたちの日常生活物語

ほのぼの～なのがなあ

いや、わからん…ビうなるかは！

なにせやつらは自由気ままだから！

ホント、僕疲れます。  
by 閻靈使いダルク

だいいちわー

なんていうかな。とにかくやつらは自由気ままなんだ。本当に。  
もお、毎日疲れる。この前だつて、リビングでみんなで遊んでいた  
ら、結局5人が暴走し始めて僕は端っこでゲームしなければいけな  
い始末。まあいいけどね。それが僕っぽいし。

なんだろうね。あの異様なテンション?僕にはどうもついて行け  
そうにないよ。しかも僕は後から来たから、まだあんまり馴染めな  
い!

僕と同じ様に後から来たライナはすぐ  
。やっぱり女の子同士だからだよね？

む、おの声は。

僕が振り返る前に、ドンと思いつきり背中を押され、僕は顔から床に激突してしまった。なにこれ、むっちゃ痛いんですけど。「だるくも一緒にあそぼーよー。みんなむこーにいるんだよ」「何とか、顔を起こす。やつぱりだ。後ろにいたのはウインだつた。緑きれいな髪はいわゆるポニー・テール。可愛らしい顔立ちで、見た目　b　なのだが、て僕はなにを説明してるんだ……。

$$\Gamma = \{ \overline{\gamma} \mid \overline{\theta} \}$$

ワインは僕の服の袖をひびつでいる。

「僕はいいよ。てか。なにしてるの？」みんなは

「へえ、鬼ごっこねえ

うん。興味ない。あんまり走つたりするのは得意じゃないし、第一

「鬼ごっこしたのしーよー。私がねー逃げる役」  
一、今日は暑い。夏でもないのにこの暑さ。僕の相棒であるD・ナポレオンもうだうだしている。目に羽付いてるだけだけどね。

「へえ――」

どうでもいいんだけど……、てなんか今の台詞おかしくないか？  
「私が……て、鬼ごっこは鬼一人だろ。ワインは逃げるやくなんだ  
ろ？ 私が一だと一人っぽいじゃん」

ワインは首をかしげている。

「ダルクのいつてることは難しくて分からないよ……。でも、逃げ  
るのは私一人だよ？」

「……？」

今度は逆に僕がくびをかしげる。

「私が逃げて、みんなに追いかけでもらうの」

それって、ふるぼっこバターンだよね。

僕たちのやる鬼ごっこは、普通のみんながやるような鬼ごっこと  
は遠くかけ離れたもの。魔法を使って攻撃しようと何しようとあり。  
だから、4対1ともなると、それはどう考えてもいじめのレベル。  
でも、ワインは楽しそう。別にMとかっていうわけじゃない。コ  
イツは単にバカなだけ。気付いてない。自分のポジションに。

「ほらーダルクもー」

「……もし僕が入つたらどうち側なの？」

「それはもちろんワインのほうだよー」

イジメデスカ…？ 無理無理。死ぬって。だつて向こうには、天敵、  
光靈使いライナがいるし、暴走少女（本人に言つたら殺される）エ  
リアもいる。エリアは恐いよ。いつもは清楚な感じだけ……いや、  
確かにいい性格なんだけどね……、時々うつ氣が出るといつか。う  
ん。

「やっぱ、僕は棄権ということでファイナルアンサーで」

「むむ。しかたないなあー。よし！ にげるぞ。いくよ、ブチリュ  
ウ！」

一直線にかけるワインの後ろをブチリュウが何とか追いかけてい  
つてる。

今日もつるさこつるさこ。でも、ここでの生活はとても楽しい。  
さてさて、僕は子の大きな木の下で昼寝でもするところかな。

やつぱり木陰は気持ちいいな……。  
眠くなってきたよ……。

ガツン。

「いつたつ！」

いきなり頭に激痛。

まったくなんだよ……と、原因を探ると……

「H、エリア……？」

「あははー、ダルク楽しそうだね」

なにを言つてるのだろう。てか、僕なんでけられた？ そりゃあ、エリアはたまに恐いよ。でも理由無しに暴力ふるほど酷くは……  
エリアが二コリと、恐いほどの作り笑いをした。

「理由なし？ へえー、理由無しと黙つてるんだー。りやんと理由はあるけどわからないの？」

頭をぐいぐいと容赦なく足で踏んでくれ……。

なんで心読んでるんだ。

「あ、なんで？ そんなの簡単。ちゅうひとね、『心実の眼』を使わせてもらいましたー」

手の内読むあれか……。読心にも応用できるのか。

エリアの杖が僕の眼前に向けられた。

「えーと、あの。すみませんでした。許してくださいこ

「いやだ」

エリアは小さく呪文を詠唱する。

どうやら、今日の僕の「ヤマハ」で終つたようです。  
僕の意識は闇へと急速にダウン。  
要するに、気絶した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2931v/>

---

霊使いたちの日常

2011年8月18日17時52分発行